

【功績賞】黒田 和男氏（社団法人地下水技術協会）

●対象業績

黒田氏は、地質調査所では、応用地質・環境地質の部門で主として水資源関係の業務に従事された。同時に、表層地質・地形・地下水などの状況を検討されて、地すべり地と地質構造の因果関係をまとめられた。これは、広く知られた小出氏の地すべり地質分類を根本的に見直す必要性が指摘された。

1963年に設立された地すべり学会に当初から参加され、運営委員をはじめ編集部・国際部等の幹事など歴任され、学会の発展に尽くされた。設立当初の学会の運営は、在京の方々の努力に支えられ、現在の学会に発展したのである。

学会が発展するに従い、小出氏の分類に問題があるので、新たな地質分類を検討することになり、1979年に地すべりの地質分類小委員会が発足した。筆者もこれに参加することができ、黒田氏と親しく接することができたのもこの委員会のおかげである。氏は豊富な野外の調査に基づいた該博な知識を披露され、何を聞いてもさっと回答される。筆者などとても及ぶところではなかった。

委員会における検討は多方面にわたった。結局、黒田氏の提唱された地すべりの地質帯区分が採用され、黒田氏が総論、委員が日本の各地域の地質帯区分についてまとめた、それは、学会誌、18巻、4号（1982年）に特集されている。これは、地質的観点にたって、地すべりを基準にして日本列島を16の地帯に区分したものであり、小

出氏の地質分類に代わるものである。地すべりに関する黒田氏の業績は多々あるが、この地質帯区分は画期的であった。

「Landslides in Japan」では、日本の地質の紹介として、この区分が引用された。おそらく、外国人にとって複雑な日本の地質の理解に大いに役立ったであろう。しかし、この地質帯区分が日本ではあまり普及しなかったのは、残念なことである。この機会に、この地質体区分を活用して頂ければ幸いである。

●略歴●

- 昭和29年 京都大学理学部地質学鉱物学科卒業
- 同上 通商産業省工業技術院地質調査所入所
地質部を経て、応用地質部水資源課長・環境地質部
水文地質科長・主任研究官等を歴任
- 平成4年 同上 定年退職、
鳥根大学地学部地質学科教授
- 平成7年 同大学定年退職



（藤田 崇）